

違法賭博の問題性—問題の背景を考える—

オリンピック内定のバドミントン選手が、違法賭博で選手生命を危うくしている。また、最近、読売巨人軍の選手も、野球賭博疑いで3人が野球界から追放され、一人が1年間の謹慎処分にされている。

マスコミの報道に同調して、ほとんどの日本人が彼らをバッシングするが、はたして何を問題にしているかという国民的合意はあるのだろうか？

違法賭博があるということは、合法賭博もあるという意味である。合法賭博とは、日本ではポートレースや競馬・競輪であり、アメリカのラスベガスでのカジノは合法賭博である。税収を増やすために、橋下前大阪府知事は大阪にカジノ誘致を提案した。同じような内容であっても、賭博の“寺銭”を国がもらえば合法であり、暴力団がもらえば違法なだけなのである。

今回は何を問題にしているのだろうか？

違法賭博は暴力団の資金源になるからやっちはいけない？これは理解できる。しかし、そのためには、日本における暴力団の歴史のおよび現在における存在意義を同時に議論する必要があるだろうか？

賭博は依存症になる可能性があるので、するべきではない？もし、そう思う人がいるなら、合法賭博も日本では中止にすべきではないだろうか？特にアスリートは一般人より賭博愛好家であるとの指摘があり、若者が大金を手に入れば、今回のように賭博に手を出す可能性は十分にある。

ラスベガスで合法賭博をして億単位の金を損した、製紙会社の社長は逮捕された。これは賭博に対してではなく、会社に対しての横領罪であった。賭博を非難されたわけではないが、その金額の大きさについては議論がされている。しかし、賭博行為自体がだめなら、高校生でも時々やっている一口100円の高校野球の賭博も、学生の賭け麻雀も、医局でのゴルフでの賭けも賭博であるし、違法である。そのように、掛け金の額ではなく、賭博についての本質的な議論が必要であろう。

野球選手が、自分の参加する試合の勝敗について、賭をしているとなると、応援したくなくなる気持ちは理解できる。試合前のベンチ前での円陣では、戦略を議論し、自分たちを鼓舞していると思っていたのに、それが、「勝ち負けにくら賭ける？」という会話が中心であるなら、プロ野球試合をみるのは興ざめ

であり、感情として、そのような行為はしてほしくない。

マスコミの報道に同調して彼らをバッシングする前に、問題の背景を常に考え、本音の議論にしなければ、特定の若者を犠牲者としても社会は何もかわらないのではないだろうか？

2016.5.22

伊賀内科・循環器科

伊賀幹二